



病院だより

第39号

新城市民病院広報委員会

新城市字北畑32-1

Tel 0536-23-7852 (総務課)

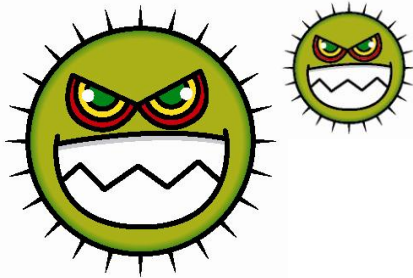
Fax 0536-22-2850 (総務課)

ご存知ですか？ Hib(ヒブ)ワクチン

小さな子どもにとっても恐ろしい感染症のひとつに細菌性髄膜炎があります。この病気は、細菌が脳に感染する重症の感染症です。日本では年間約千人の乳幼児がかかり、そのうち約5%の方が亡くなり、約25%に重い後遺症が残ってしまう病気です。

原因となる菌は、インフルエンザ菌のb型菌と肺炎球菌などがあります。原因菌のうち、約6割がインフルエンザ菌のb型菌であるといわれ、この菌の頭文字を取ってHib(ヒブ)と呼びます。

Hibには通常6歳以下の乳幼児がかかります。Hibで引き起こされる病気には細菌性髄膜炎のほか、突然息ができなくなって窒息状態となり死亡率も高い急性喉頭蓋炎や敗血症もあります。



Hibが原因で引き起こされる病気は進行が早く、早期診断が難しいことも怖い病気です。アメリカなどでは、

すでに約20年前にはワクチンが導入され、ワクチン導入前と比べて発症する患者数が10分の1にまで減少しています。

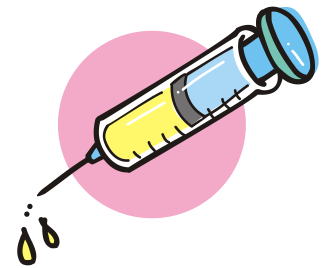
日本では2年ほど前からワクチンの接種ができるようになりました。まだ残念ながら任意接種の扱いであり、接種費用は自費となっています。任意接種なので医療機関によって費用が異なります。費用については各医療機関にお問い合わせください。

公費負担ではないため、高額な予防接種となりますが、接種することで確実にHibによる病気を予防できます。

予防接種の基本的なスケジュールは、生後2カ月時、3カ月時、4カ月時と1歳半の計4回接種となります。

Hibワクチンについては三種混合と同等以上の安全性が証明されていますので、恐ろしい細菌性髄膜炎の予防のためにHibワクチンの接種を考えてみてはいかがでしょうか。

Hibワクチン接種の予約、お問い合わせは当院小児科外来でも行っています。



シーズン到来 花粉症

2月も後半となって日中は春らしい暖かい日が多くなり、周辺の山が花粉で霞んでいる景色を見るようになりました。

この時期は花粉症でお悩みの方が非常に多くいらっしゃいます。今年は例年より花粉の飛散が少ないと予想されていますが、花粉症を発症するには十分な量の花粉が飛散しますので、例年と同様に花粉対策が必要です。

鼻水や鼻づまり、目のかゆみなどつらい症状でお悩みの方は早めに医療機関へ受診し、症状に合った薬を処方してもらうようにしましょう。

玄関に入る前に髪や洋服に付着している花粉を払うなど、できるだけ家の中へ花粉を持ち込まない対策が重要です。犬などのペットにも散歩などで体中に花粉が付いてしまいます。家に入る前にはブラッシングして花粉をしっかりと払いましょう。家の中の掃除はこまめに、掃除機だけではなく水ぶきで花粉を取り除きましょう。



最近の出前・健康講座から

出前・健康講座は1月に7カ所、2月に3カ所と各地区へ出向きました。老人クラブやミニデイサービスの行事として依頼されることが多く、どの会場でも皆さん熱心に耳を傾けていただいています。

今回は、その中から2月18日(木)に庭野地区で開催した出前・健康講座の様子を御紹介します。



この講座では、老人クラブ耆老会の方々約50人が参加されました。テーマは「がん」と「健診の重要性」の2つで、看護師の山本診療運営部長と総合内科医師の石黒先生がそれぞれお話をしました。

「がん」の話では、消化器がんを中心にお話し、定期的な検診ががんを早期に発見する最も有効な手段であることや、体に異常を感じたら早期受診を心がけ、初期の段階で治療をはじめることの重要性を話しました。

がんは心臓病、脳卒中と合わせて「現代の3大疾病」と呼ばれているだけあって、皆さんの関心も強く、真剣な面持ちで話を聞いていらっしゃいました。

「健診の重要性」の話では、まず病気の予防には健診が重要であり、地域の健診受診率を向上させたいと訴えました。健診は受けることも大事ですが、受けた後フォロー(健診結果の詳しい説明と治療していくべき生活習慣病の指導)が大事であると話しました。

健診は受けたが、その後の受診はどうすれば良いのかわからず、そのまま受診せずに済ませているという方を一人でも少なくするために二次健診を受けていただくようお願いしました。

市民病院では総合内科の午後診察(毎週火・水曜日12時から16時30分まで受付)で今回の講師である石黒医師による総合内科の診察があります。

健診後のフォローや、要精査の必要がある方は一度受診してみませんか。



院内火災訓練

2月24日(水)、年に1度の火災想定訓練を実施しました。

2階の臨床検査室を火元と想定し、初期消火、患者避難・誘導、情報伝達訓練を実施しました。また、地下駐車スペースでは消火器使用体験も行いました。

有事の際に備えて春に火災訓練、秋に地震訓練を行っています。

